

加藤大幹

一発の原爆が広島を赤と黒だけにし、広島にいた人々を殺した。それは一九四五年に起こった。私はこのことを知ったとき、何かの作り話なのではないかと思っていた。それから何年かか過ぎ、が、と広島に行けることになった。私はこの夏、原爆資料館へ行き、原爆ドームを見た。そして広島平和祈念式典に参加した。私はこれらのことをして戦争が実際に起こり、原爆は広島に落とされたという事実を自分の目で見て信じることができた。ここまで読んで戦争はよくなりものだと思ふ人がいるだろう。私もそう思った。だが、そのようなよくなりことを人間はなぜ起こすのか。私はこちらに疑問をもった。きっと人間はみな平和を願っているはずだ。それなのに人類は戦争をしている。これは矛盾している。私は戦争する理由は考え方の違いが生じるからだと思う。

戦争は日常生活である、話し合いに似ていると思う。例えば、会議で二つの案が出たと

する。このとき、案を一つにするにはもう一つの案を消さなければならぬ。だがどちらをもゆずらないとその問題は長期化し、その人たちの関係も悪くなってしまう。事を安全に進めるにはどちらかがかかマンしなければならぬ。つまり、平和を作るためには誰かが相手の意見をのむ、考え方の違いを認める必要がある。これは誰でもできることではないか。考え方の違いの認め、未来の平和をつくるために努力することか私の使命だと考える。